

肝疾患診療連携拠点病院における肝炎医療コーディネーター養成・啓発活動の現状とその課題

分担研究者：是永匡紹 所属先 国立研究法人国立国際医療研究センター 肝炎情報センター
研究協力者：横内 望 所属先 国立研究法人国立国際医療研究センター 肝炎情報センター
研究協力者：考藤達哉 所属先 国立研究法人国立国際医療研究センター 肝炎情報センター

研究要旨：ウイルス肝炎はわが国の国民病と位置づけられ、約 350 万人のキャリアが存在すると推定されている。様々な対策により、2011 年には未受検者は約 77 万人に減少した一方で、約 53～120 万人が陽性と知りながら受診していないと推測されている。今後は専門医のみならず非専門医を含めたメディカルスタッフ、地方公共団体の肝炎ウイルス対策部署・保健所、健診医療機関や保険者等にも肝炎ウイルス検査受検促進、陽性者を受診、受療へ導くことの重要性を認知させることが急務であり、その対策として多職種による肝炎医療コーディネーター(肝 Co)養成が全国で勧められている。

本研究では肝炎情報センターが主催する肝疾患相談・支援センター向け研修会、肝炎等克服政策研究事業研究班との連携により、これまで①拠点病院内の肝 Co 養成数・職種が多岐にわたる方が活発に活動していること②地方公共団体の肝 Co は肝炎ウイルス検診の業務の一環として活動しており異動により継続が困難であること③拠点病院内の医療従事者であってもウイルス感染(経口感染と血液感染)に関する知識は十分でないこと④啓発活動に対する効果が評価されないことを課題として報告してきた。これらに対して、本年度は A.研修会での肝 Co 参加状況 B.地域戦略ブロック会議における肝 Co に対する認知度 C.肝 Co 養成研修会における B 型肝炎に対する認知度 D.啓発活動の out put をそれぞれ調査したところ A.肝 Co 取得者の増加 B.拠点病院が肝 Co の取り組みが中心である一方、地方公共団体は検査・フォローアップが最重要とされ意識に違いがあること C. 講義内容によって感染に対する捉え方が変化すること D.肝炎ウイルス検査よりも腹部超音波検査が受け入れやすく、リーフレット等に対する反応は 5%程度であることが明らかとなった。

A. 研究目的

ウイルス肝炎はわが国の国民病と位置づけられ、約 350 万人のキャリアが存在すると推定されている。2011 年統計では約 77 万人が未受検とされているが、2011 年から 5 歳毎の受検勧奨によって、健康増進事業でも約 400 万人以上受検しており、非受検者は減少していると推測される。

その一方で、陽性と知りながら受診していない、或いは受診を継続していない陽性者が約 53～120 万人存在するとされ、その対策として、肝臓専門医のみならず非専門医を含めたメディカルスタッフ、地方公共団体の肝炎ウイルス対策部署・保健所、健診医療機関や保険者等にも肝炎ウイルス検査受検促進、陽性者を受診、受療へ導くことの重要性を認知させることが重要であり、

その対策の一つとして、平成 29 年度より肝炎医療コーディネーター(Co)養成が開始され、平成 30 年度内に全都道府県で陽性開始となった。

本研究では、肝炎情報センターが主催する研修会・肝炎対策地域ブロック戦略会議、肝炎等克服政策研究事業研究班と連携し、これまで①拠点病院内の肝 Co 養成数・職種が多岐にわたる方が活発に活動していること ②地方公共団体の肝 Co は肝炎ウイルス検診の業務の一環として活動しており異動により継続が困難であること ③拠点病院内の医療従事者であってもウイルス感染(経口感染と血液感染)に関する知識は十分でないこと ④啓発活動に対する効果が評価されないことを課題として報告してきた。

本年度は、肝 Co 養成状況や地域別の肝

Coに対する考え、養成時のB型肝炎ウイルス感染に対する認知度、啓発活動の効果判定を行うために以下のA～D、4つの検討を行った。

B. 研究方法

A. 平成29年～令和元年度に開催された（令和元年度は開催延期）肝炎情報センター主催 肝疾患診療連携拠点病院 肝疾患相談・支援センター関係者向け研修会の参加者の肝Coの割合

B. 令和元年度 肝炎情報センター主催 肝炎対策地域ブロック戦略会議における拠点病院関係者と地方公共団体肝炎対策部署の取り上げて欲しいテーマ内容をアンケート調査

C. 4地方公共団体で開催された肝Co養成研修会でのB型肝炎ウイルス感染の認知度（食事によって感染するかの有無）調査

D. 大規模会場（マツダスタジアム）で肝炎クイズ、腹部超音波検査を施行しブースに集まる人数と3000部の啓発資料（うちわ・ウェットティッシュ）にQRコードを入れ込み、そのアクセス数解析

C. 研究結果

肝疾患診療連携拠点病院の肝Co

開催年度	参加施設	参加数(名)	Co数(名)	Co割合
2017年	54施設	119	44	37%
2018年	54施設	109	63	58%
2019年	56施設	102	74	73%

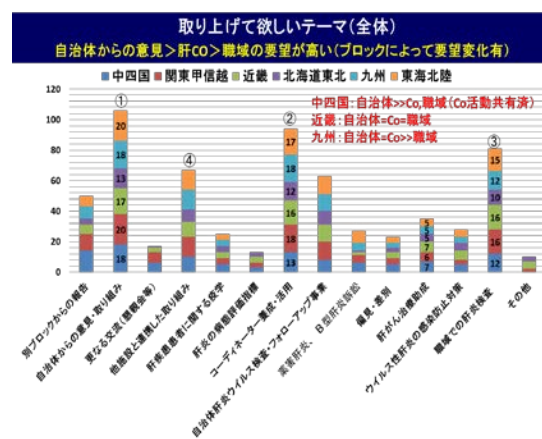
研修会の肝Co資格者はこの3年間で有意に増加していることが明らかになった。開催毎に50%弱が初めて参加する関係者であることから、拠点病院内に多くの肝Coが養成されていることが推測される。

その一方で毎回、看護職が約45%を占めること、医師約25%、事務・相談員15%、メディカルソーシャルワーカー約10%を加えると95%を超えてしまい、薬剤師・検査技師・栄養士などの参加数増加を認めておらず、活動が院内に広まっているとは断定できなかった。

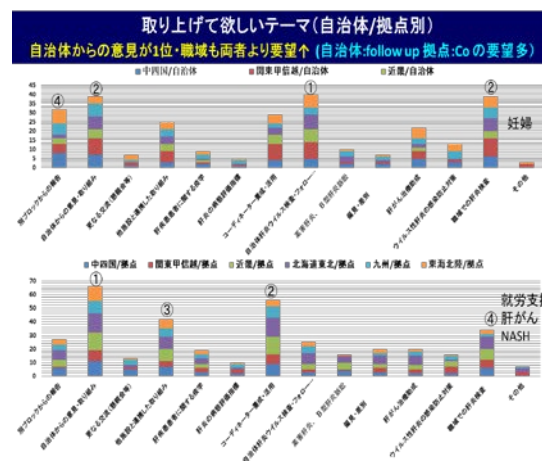
更に、全拠点病院が参加することではなく、3年以上不参加施設が7か所存在していた。

（2010～10年間継続参加は岩手、秋田、福井、名古屋市立 滋賀、関医、岡山、徳島、久留米）

拠点病院関係者と地方公共団体肝炎対策部署の差異



自治体からの意見・取り組みをブロック会議で取り上げて欲しいという意見が多く、次点がコーディネーター養成・活用であった。この2項目は、各ブロックではほぼ同数の得票を集めていたが、中四国ブロックではCo関連が5票も少なかった。



更に、拠点病院と地方公共団体別に集計すると、Co養成・活用は拠点病院関係者が多く投票しており、近畿、北海道・東北地区でその要求度が高い結果であった。一方で、地方公共団体からの得票は、5番目にしか過ぎず、関東甲信越ブロックのみ拠点病院より得票数が上回っていた。

肝Co養成研修会でのB型肝炎ウイルス感

染についての理解度

4カ所の研修会で、先行した B 型肝炎ウイルスに対する講義が行われたあと、アンサーパートをもちいて「B 型肝炎ウイルスが食事で感染するか？」と質問した。

問 2 a 食事を通じて感染する可能性？

B型肝炎



医療職(25 名)が「ない」と回答

問 2 a 食事を通じて感染する可能性？

B型肝炎



職域事務職(37 名)では 80%

問 1a 食事を通じて感染する可能性？

B型肝炎



A 県 Co 研修会(72 名)では 83%

問 2 a 食事を通じて感染する可能性？

B型肝炎



B 県 Co 研修会では 54%に留まっていた

講義内容により、差が見られるも医療職は HBV に対する一定の知識が Co 研修によって習得可能と推測可能も、非医療職が入ると 約 20%程度「感染する」「わからない」と講義後であつても回答することが明らかになった。

B 県研修会では、ワクチン接種の重要性を知って貰うために「血液以外→汗・体液・涙にも HBV が検出される」と説明しており、数時間後の質問でも、約 40%が「食事でも感染する」

と

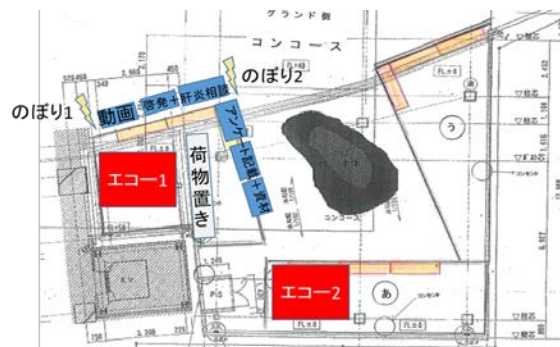
回答したと推定された。

啓発活動の効果測定

約 30,000 人収容可能なマツダスタジアムで

①スタジアム内にあるブースでエコー検査・肝硬度測定が無料で受検可能あること ②肝炎クイズに全問(3 問)正解すると景品がもらえること が記入された約 3000 個のうちわ・ウェットティッシュを 15 時から配布し、(16 時には配布終了)し、集客数を計測した。

更に、③配布物に QRコードを入れ込み、モバイルからでも肝炎クイズが可能とし、アクセス数を解析した(下図参照)



20 時(約 5 時間)までブースを開き、250 名がエコー検査を体験、800 名が肝炎クイズを行った。

いくつ正解しましたか？
この画面をカバ広場の
係員に見せてね！

無料の
エコー検査も
やってるゾー

カバ広場で
待ってるゾー

肝炎クイズ参加の記念に
素敵な賞品をプレゼント！

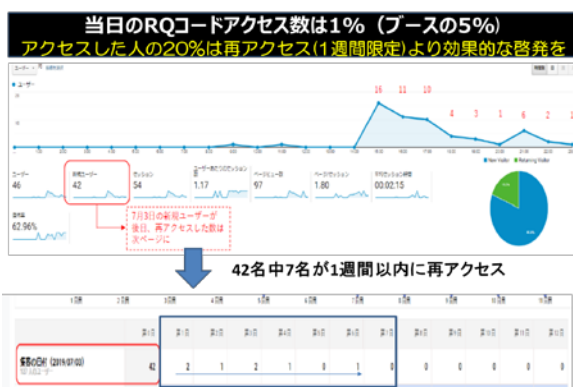
カバ広場へのアクセス
※賞品のお渡しは試合当日7回裏終了まで。

本日、カバ広場で
肝臓エコー検査(無料)
を実施中！

脂肪肝、肝炎ウイルスが気になる方、
その機会にぜひ、検査をしてみよう！

(肝炎クイズをモバイル端末で行うと上記画面に誘導されるように作成)

その一方で、QRコードを利用してクイズを行いブースに現れた人は数名に留まり、アクセス数を解析すると42名にとどまったが、7名はその1週間に再度クイズにアクセスしていた。

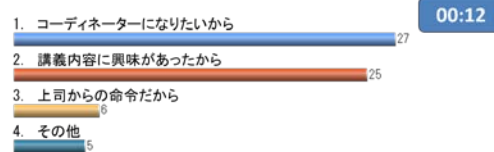


D. 考察

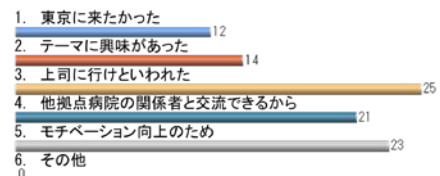
肝 Co が全国で養成されているものの、その活動を維持するためには、拠点病院内での Co 活動を充実させ、専門医療機関、医療関係部署(薬局、かかりつけ医、健診利用期間、保険者)へと広めていくことが重要で

あるが、肝炎情報センター主催の研修会でも、看護職の参加が目立つこと、拠点病院間にも大きな格差ある。その一方で、下記に示す様に、各地域での肝 Co 養成研修会参加者の意欲は非常に高く、そのモチベーションを維持していくことが拠点病院・地方公共団体に求められている

A県肝Co研修会に参加した理由は？

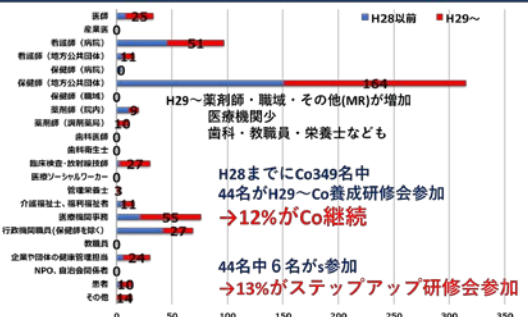


肝炎情報センター主催の研修会に参加した理由は(複数回答可)



(↑情報センター主催の研修会よりも、各都道府県で開催される Co 養成研修会のモチベーションが高く、養成後 Co に対するフォローアップが必須である)

千葉県肝Coの現状(H29~441名) 保健師↑



(↑、千葉県では地方公共団体関係者に積極的に肝 Co を養成していきだが、平成29年以降に継続を望んだのは、349名中、44名(12%)に過ぎない。)

また、ブロック会議のアンケート調査からは、肝 Co 養成は都道府県が実施主体であるものの、その関心度合には差を認め、関東甲信越・東海北陸ブロックで拠点病院と同数の関心が得られた以外は、地方公共団体の興味は薄く、かけ離れた結果となっていると考えられる(特に北海道・東北、近畿ブロック)。埼玉県・千葉県の様に、地方公共団体向けの養成講習会を行って

(↓ 埼玉県での Co 養成講習会)

[illegible]

肝炎情報センターでは、次会研修会で各地域での Co 養成・ファローアップ(継続・ステップアップ)等の研修会 Agenda を持ち込み、グループワークを行うことで、その内容を共有し、出来るだけ均てん化された Co 育成・活用に繋がられないかと検討している(令和 2 年 2 月 28,29 日予定も延期→6 月 5,6 日に開催予定)

啓発資材を配布するだけでなく、同時に非侵襲的である 腹部超音波検査・肝硬度測定を行うだけで、来場者の1%が体験すること、更に 70%が女性であったこと は新規知見であり、今後の啓発方法で薦められる方法と推測する。

あげられるが、うちわ・ウェットテッシュ等の資材配布だけでは、有効性は得られず、更なる検討が必要であると考えられた。国立国際医療研究センターは第一生命と業務提携し、令和2年1月末から啓発リーフレットを1万枚作成し、訪問時に配布している。資材にはQRコードが入っており、現在アクセス数を解析中である。

健康 第1

REPORT

お立ち情報センター

一生命のパートナー

第一生命

Danish Life Group



自覚症状なく 進行する肝がん...

肝がんの主な原因は
肝炎ウイルスです

原因は？



原因の**約70%**が
B型・C型肝炎ウイルス。
ウイルスの感染の有無は
肝炎ウイルス検査
をしないと分かりません。

監修
Taniuchi R. et al.
J Gastroenterol, 2019

検査と治療で
肝がんは予防できます

まずは **肝炎ウイルス検査**を受けましょう

治療は？

ウイルス性肝炎は
飲み薬で治療できます



治療は短期間。
C型肝炎は最短2か月で
ウイルスを**95%以上**
排除できます。
副作用もほとんどなく
安心です。

アンケートにご協力ください

肝炎ウイルス検査を受けたことはありますか？

☐ はい ☐ いいえ

結果にも記入ください

予 防

肝炎ウイルスの **検査と治療**で **肝がんを予防**しましょう

肝臓は「沈黙の臓器」。自覚症状がほとんどないまま、肝臓から肝硬変、肝がんへと進行していきます。

正常

慢性肝炎

肝硬変

肝がん

まずは

自覚症状がなくても
肝炎ウイルス検査



採血のみ

1週間
で
結果

もしも

感染していたら速やかに
超音波（エコー）検査



痛くない

検査は
約20分

検査結果は、治療の
方向性を決定します

Information

健康診断で肝臓に問題なしなら
肝炎ウイルス検査は不要？

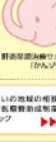
A 答えは×。通常の健康診断は肝臓検査を行わず、肝炎ウイルスの感染の有無は肝炎ウイルス検査をしないと分かりません。

肝炎ウイルスで
肝臓に付いておられる
肝がんを予防できるツール

QRコード
読み取
れ



肝臓健康診断サポートキャラクター
「肝んちゃん」



肝炎や肝臓病に関する
情報を提供しています

国立研究開発法人 国立国際医療研究センター

肝炎情報センター

お住まいの地域の保健
窓口や医療機関等へ
ご来場ください

〒100-8585 東京都千代田区千代田1-1-1
電話 (03) 9316-2111 (代表)

ご来場の際は、感染症に関する予約手続き・お申し込み
☎ 0120-157-157
受付時間 午前9時～18時（土日祝・年末年始を除く）
ホームページ <https://www.danishlife.co.jp/>

お電話したのと同じ

A-鑑別 C19-125-01319(2019/2.16) 流通1621-001 2020年1月版

014

師 1月12日 180名) 共催 千葉県
(8) 令和元年度 職域向けウイルス性肝炎研修会コーディネーター養成コースⅠ
(講師 1月30日 東京都社会福祉保健医療研修センター 事業主や総務、人事担当 45名) 主催 東京都福祉保健局
(9) 令和元年度職域向けウイルス性肝炎研修会コーディネーター養成コースⅡ
(講師 1月23日 東京都社会福祉保健医療研修センター 産業医や保健師 30名) 主催 東京都福祉保健局
(10) 令和元年度 千葉県肝炎医療コーディネーター継続研修会(講師 2月2日 68名)主催 千葉県
(11) 令和元年度 千葉県肝疾患診療連携拠点病院連絡協議会 (講師 2月17日 25名) 主催 千葉大学

啓発資材

リーフレット (マツダスタジアム配布用別紙1)
リーフレット (別紙2)
うちわ・ウェットテッシュ

- H. 知的財産権の出願・登録状況
- 1.特許取得 なし
 2. 実用新案登録 なし
 3. その他 なし